

別紙-4 監視計画

(1) 監視の項目

監視の項目は以下に掲げる項目とする。

- 1) 海洋投入処分の実績に関する事項について
 - ①海洋投入処分をした廃棄物の数量について
 - ②廃棄物（水底土砂）の判定基準への適合状況について
 - ③単位期間ごとに実施したしゅんせつ範囲について
 - ④単位期間ごとに実施した試料採取位置について
- 2) 海域の状況について

(2) 監視の方法

1) 海洋投入処分の実績に関する事項

① 海洋投入処分をした廃棄物の数量

排出船に常備されている廃棄物処理記録簿に基づき、海洋投入処分の実績量を確認する（表 5 参照）。また、廃棄物処理記録簿に記載された、G N S S による排出開始時及び排出終了時の排出位置を確認、記録する。

② 廃棄物の判定基準への適合状況

単位期間毎に、初めて海洋投入処分しようとする土砂の表層泥を採取し、判定基準の適合状況を確認することとする。

なお、判定基準へ適合していることを確認した上で、当該一般水底土砂の海洋投入処分を実施する（表 5 参照）。

③ 単位期間ごとに実施したしゅんせつ範囲

単位期間ごとに実施したしゅんせつ範囲を図示し、許可申請範囲内であることを確認する。

④ 単位期間ごとに実施した試料採取位置

単位期間ごとにしゅんせつ土砂の性状把握のために実施した試料採取位置を図示し、許可申請範囲内かつしゅんせつ範囲の代表性を有する位置であることを確認する。

2) 海域の状況

海域の状況については、事前評価において現況の把握を行った調査項目に関し、把握した現況からの変化が生じているか否かについて、調査項目の現況を把握する際に用いた資料の継続的な収集により把握する。なお、今回の申請に用いた資料の一覧を表 6 に示す。資料の継続的な収集が難しい場合は、専門家やその他の知見を有する者からの聴取等も行う。

ただし、現況を把握する際に用いた資料については、監視調査の実施時期における更新情報の確認が難しい場合には、直接的な環境変化が想定される水環境、海底環境については現地調査により試料を採取・分析して状況の把握を行う（表 7 参照）。

(3) 監視の頻度

1) 海洋投入処分の実績に関する事項

① 海洋投入処分をした廃棄物の数量

単位期間に 1 回の頻度で、単位期間終了時までには海洋投入処分した廃棄物の数量を(2) 1)

① 海洋投入処分をした廃棄物の数量、に定めるところにより確認する。

② 廃棄物の判定基準への適合状況

海洋投入処分の実施前に、しゅんせつする土砂の表層泥を採取し、判定基準の適合状況を(2) 1) ② 廃棄物の判定基準への適合状況、に定めるところにより確認する。

また、判定基準への適合状況を確認した範囲であっても、船舶による事故（油等流出事故）、近隣地域における工場等の立地等、しゅんせつ範囲への新たな汚染が確認された場合は、その都度、判定基準への適合状況を確認する。

監視の方法と監視の頻度を表 5 に示す。

③ 単位期間ごとに実施したしゅんせつ範囲

単位期間に 1 回の頻度で、実施したしゅんせつ範囲を(2) 1) ③ 単位期間ごとに実施したしゅんせつ範囲、に定めるところにより確認する。

④ 単位期間ごとに実施した試料採取位置

単位期間に 1 回の頻度で、しゅんせつ土砂の性状把握のために実施した試料採取位置を(2) 1) ④ 単位期間ごとに実施した試料採取位置、に定めるところにより確認する。

2) 海域の状況

海域の状況についての監視は、当該許可に基づく海洋投入処分による海域の状況の変化を総合的に把握する上で適切な時期である海洋投入処分終了後の令和 6 年度に 1 回実施する。

なお、海洋投入処分の中間期の監視は、海洋投入処分による海域の状況の変化を確認するため、令和 3 年度に実施することとしており、令和 3 年 3 月 31 日に報告済みである。

海域の現況を把握するための主な資料を表 6 に、監視の方法と監視の頻度を表 7 に示す。

表 5 監視の方法と頻度（海洋投入処分の実績に関する事項について）

監視項目	監視の方法	監視の頻度
①海洋投入処分をした廃棄物の数量について	排出船（グラブしゅんせつ船）に備えて付けている廃棄物処理記録簿の記録を基に、海洋投入処分をした一般水底土砂の数量を確認する。また、排出開始時及び終了時の位置をGNSSにより確認・記録する。	単位期間に1回の頻度で、当該単位期間に海洋投入処分した廃棄物の数量を(2)1)①に定めるところにより確認する。
②廃棄物の判定基準への適合状況について	単位期間毎に、初めて海洋投入処分しようとする土砂について、判定基準への適合状況について確認する。なお、判定基準へ適合していることを確認した上で、当該一般水底土砂の海洋投入処分を実施する。	海洋投入処分実施前に、判定基準への適合状況を確認する。(2)1)②に定めるところにより確認する。また、判定基準への適合状況を確認した範囲であっても、船舶による事故（油等流出事故）、近隣地域における工場等の立地等、しゅんせつ範囲への新たな汚染が確認された場合は、その都度、判定基準への適合状況を確認する。

表 6 海域の現況を把握するための主な資料一覧

分類	図書名	出典
底生生物	レッドリスト 貝類	環境省（最新は2020）
	レッドリスト その他無脊椎動物	環境省（最新は2020）
	海洋生物レッドリスト 甲殻類	環境省（最新は2017）
	海洋生物レッドリスト その他無脊椎動物	環境省（最新は2017）
	日本の希少な野生水生生物に関するデータブック	水産庁
	北海道レッドデータブック	北海道
	干潟の絶滅危惧動物図鑑	日本ベントス学会編
流況	海流統計表示	海上保安庁海洋情報部海洋情報課日本海洋データセンターウェブサイト
	日本沿岸安全航行用資料	海上保安庁交通部安全課ウェブサイト
水質	網走市環境白書	網走市
	北海道水環境ホームページ	北海道
	海洋汚染調査報告	海上保安庁
生態系	脆弱沿岸生態系図	環境省
	自然環境 GIS	環境省
海洋レクリエーション	水浴場（開設前）水質調査結果	環境省
	国立公園区域	環境省
	オホーツクの水産	北海道オホーツク総合振興局
	共同漁業権図	海上保安庁海洋情報部ウェブサイト
航路	海図 W1039 網走港至枝幸港	海上保安庁
	国内フェリー航路	北海道
	離島フェリー航路	北海道
	遊覧船航路	北海道旅客船協会
	船舶航行量	海上保安庁海洋情報部ウェブサイト

表 7 監視の方法と頻度（海域の状況について）

監視項目		監視の方法	監視の頻度
水環境	海水の濁り	調査項目の現況を把握する際に用いた資料の継続的な収集又は整理により現況からの変化が生じているか否かについて把握する。 資料の継続的な収集によって、海洋投入処分後の現況把握が難しい場合は、現地調査を行って把握する。	当該許可の有効期間において、海洋投入処分中間期（1年次）及び終了後（5年次）の2回確認する。
	有害物質等による海水の汚れ		
海底環境	底質の有機物質の量		
	有害物質等による底質の汚れ		
生態系	干潟、藻場、サンゴ群落その他の脆弱な生態系の状態	既存資料の継続的な収集・整理及び、必要に応じて、専門家やその他、知見を有する者からの聴取により把握する。	
	重要な生物種の産卵場又は生育場その他の海洋生物の生育又は生息にとって重要な海域の状態		
	熱水生態系その他の特殊な生態系の状態		
人と海洋との関わり	海水浴場その他の海洋レクリエーションの場としての利用状況	既存資料の継続的な収集・整理及び、必要に応じて、専門家やその他、知見を有する者からの聴取により把握する。	
	海中公園その他の自然環境の保全を目的として設定された区域としての利用状況		
	漁場としての利用状況		
	沿岸における主要な航路としての利用状況		
	海底ケーブルの敷設、海底資源の探査又は掘削その他の海底の利用状況		

なお、監視を実施したのち、その結果を遅滞なく環境大臣へ報告するものとし、中間監視報告は令和2年度に実施、総括監視報告は令和6年度に実施する予定である。

特に、判定基準の適合状況の監視結果については、監視を実施した時は、その都度、速やかに報告する。